

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

国立公文書館	
分類	
	③ ④
配架番号	3 A
	14
	33-48

RESTRICTED

WDC No _____ Team 2 Scanner _____ Index No _____

— " 3823051035 Research report on Type 4 20 cm Rocket, 1944

RESTRICTED

め
く
れ
ず

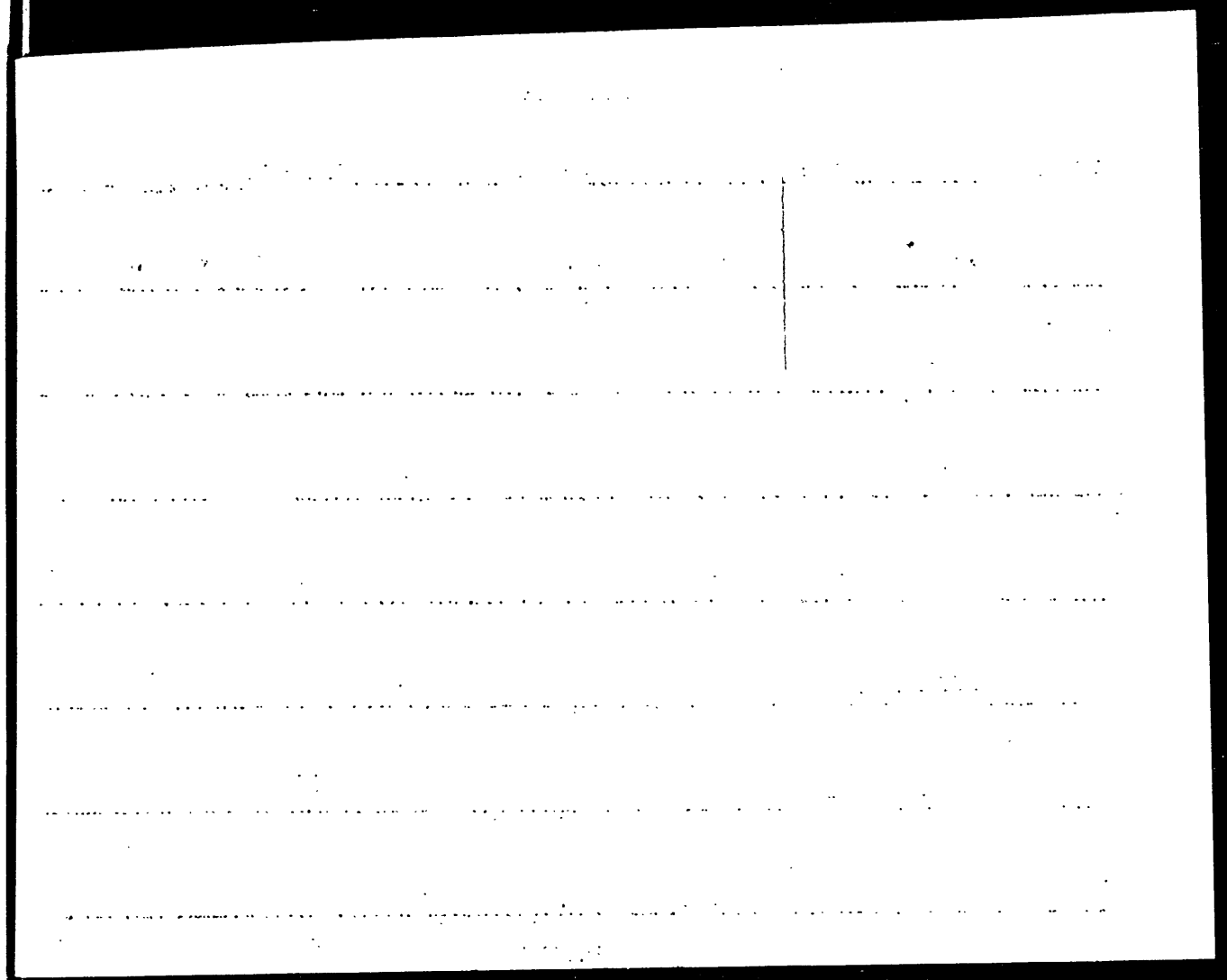
1035

軍事秘密
規則第七十一條適用
(用済後焼却)
一技研3研報第九號(◎秘101)

試製四式二十種噴進砲研究報告

昭和十九年二月二十一日
第一陸軍技術研究所

国立公文書館	
分類	
配架番号	33-48



昭和十八年七月兵技研究會第二十二號昭和十八年度研究計畫修正案

訓令ニ依リ研究ヲ開始ス

研究ニ對スル判決及將來ノ處置

判決

本砲ハ實用ニ適スルモノト認ム

2. 將來ノ處置

若干ノ修正ヲ施シ制式上申ノ準備ヲナス

昭和十八年七月七技研ニ於テ研究試作セル二十糎噴進榴彈ハ發射機トシテ

船舶戰用ノモノト共ニ設計ニ着手ス當時射角及裝藥量ノ變化力射程ニ及

ホク影響不詳ナルヲ以テ發射機ハ高射界用及低射界用ノ二種ノ架ヲ設計

シ同年八月大造ニ試作注文ス同年九月ニ至リ噴進榴彈ハろ彈ナル秘匿名

配 付 先		部 數
技 研	兵器行政本部	3
	所 長	1
	總務科 長	1
	總務科 科	1
	第二科	2
	第三科	9
陸 軍	第四科	1
	第六科	1
省兵務局		1
大阪陸軍造兵廠		1
全上枚方製造所		1
參謀本部		2
教育總監部		1
砲兵監部		1
化兵監部		1
野 砲 校		1
合 計		3 8

稱使用ル事トナリタルヲ以テ試製二十種噴進彈發射機ヲ各稱ヲ試
製二十種を彈發射機I型ト變更シソノ旨關係諸部隊ニ通牒ス尙船載用ヲ
II型トシ地上用ト區別ス

昭和十八年十月竣工試験ヲ實施シタル結果高射界用ヲ採用スル事ヲ決シ
操作ヲ容易ナラシムル如ク修正スル必要ヲ認メタリ依ツテ裝填板ヲ廢シ
テ上蓋式ニ改メ砲身ノ接續ハ「ねじ」式ヲ嵌メ込ミ式ニ改修スル等操作
容易ナル如ク修正ヲ施セリ

昭和十八年十二月修正能抗堪性並ニ射表編纂試験ヲ實施シ能良好、
抗堪性充分ニシテ且操作容易ナルヲ以テ實用ニ適スルモノト認メタリ尙
本試験ニ於テ接續ヲ要セサル短キ砲身ニ就キ比較試験セルニ眼鏡ソノ他
ノ部分ニ對スル噴進焰ノ影響大ニシテ且ツ駄目困難ナルヲ以テ採用セサ
ル事ニ決ス

昭和十九年一月野砲校ニ實用試験ヲ委託シ實用ニ適スルモノト認ムノ判
決ヲ得タリ尙る彈發射機ナル名稱ハ部隊編成上種々不便ナルヲ以テ噴進
砲ト命名スルヲ要ストノ判決アリ依ツテ以後試製四式二十種噴進砲ト稱

スル事トシ關係諸部隊ニシテ旨通牒ス

本試験ノ結果ニ基キ若干ノ修正ヲ施ス

以上諸試験ノ結果實用ニ適スルモノト認メ茲ニ報告ス

四試製四式二十種噴進砲概説

ノ用 途

中迫砲以上ノ通過困難ナル錯雜地ニ於ケル急襲兵器トス

2. 構造及機能ノ大要 (別紙真像参照)

本砲ハ砲身、脚、連結索、床板及照準具ヨリ成ル

砲身ハ前後端共ニ開放セル滑腔砲身ニシテ中央部ニ於テ前方及後方ニ

分能ス砲身後方ハ彈丸發射ノタメ螺番ヲ以テ閉鎖スル「ふた」ヲ有ス

發火機式ハ庫擦門管牽引式ニシテ砲身後端ニ引手ヲ掛テ可キ滑車托架ヲ

用テ牽引ス

脚ハ開閉式ニシテ高低照準機及水平規正機構ヲ有ス

連結索ハ砲身ヲ抱テ部ニシテ脚ノ上端ニ連リ方向照準機及照準托架ヲ

有ス

有ス

有ス

有ス

有ス

有ス

有ス

床板ハ等邊山形鉄ヲ熔接セル四角形ノ膠板ニ球印受ケヲ「ボルト」止
 メシ膠板ヲ支テ砲身ハ此ノ球印受ケヲ中心トシテ俯仰及方向變位
 照準具ハ「コリマドール」式ニシテ高低、方向ノ密位分數簡ヲ有ス

3 主要諸元

口徑	102mm
砲身長	2,920mm
肉厚	7.5mm
發火機式	摩擦閃光發引式
重量	前方 310kg 後方 86kg
砲身	前方 310kg 後方 86kg
砲架	200kg
床板（鉄板二共）	44.5kg
總重量（照準具ヲ含ム）	44.5kg

放列姿勢

高低射角	71°密位—116°密位
方向射角	射角80°密位ニ於テ左右各約15°密位

但シ高低射角ハ連結架ヲ前方ニ移動セハ約360°密位マテ可能ナリ

秘密兵器

大砲突撃担当者

科長	陸軍大佐	沼口 匡
陸軍兵技中佐	黒山 恒太	
陸軍兵技中尉	小濱 啓司	

